

第16回

カセットボンベの保管期間にご注意！ 内部ゴムパッキンの劣化でガス漏れすることも

事故事例

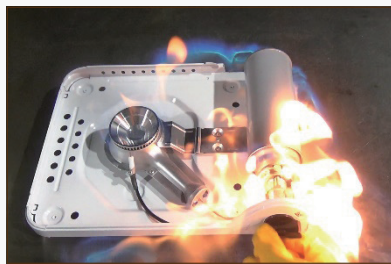
災害時の備えとして保管していたカセットボンベが古くなっていたが、外観上に変化が見られなかったため、カセットこんろにセットして台所で使用していた。突然、差し込み口の辺りで引火し、20cmくらいの炎が上がった。
(50歳代、女性)

カセットボンベは、カセットこんろの燃料として、手軽に使用できて便利な反面、可燃性のガスを高圧充填した商品であるため、取り扱いには注意が必要です。PIO-NET^{*1}には、2014年度以降、カセットボンベに関する相談が283件寄せられ、そのうち64件はガス漏れに関する相談でした^{*2}。そこで、一般家庭で長期保管されていたり、保管環境が悪かったりしたカセットボンベを調査しました。

問題点とアドバイス

(1) カセットボンベの噴出部の構造

カセットボンベは噴出口の先端(ステム)を押し込むとガスが噴出するしくみです。しかし、ステムの根元でガスの漏れを防ぐ働きをする内部パッキンが経年劣化で硬くなると、気密性を保てなくなり、ガス漏れが発生し、引火して炎が上がる可能性があります(写真)。



写真

点火時にカセットボンベから漏れていたガスに引火する状況(再現)

また、カセットボンベの金属部の変形や、表面に発生した錆^{さび}などによってもガス漏れする可能性があります。

(2) 長期保管されたもの、保管環境の悪いものでガス漏れが発生

調査の結果、ステム付近に変形や錆はないものの16年以上長期保管されていたもので、ガス漏れが発生したのがありました。そこで、長期保管によりガス漏れが発生したカセットボンベの内部パッキンを調べたところ、経年劣化により硬くなっていました。ほかにも、屋外で5年ほど保管されて金属部全体に錆が発生し、ガス漏れが確認されたものもありました。

(3) 製造年月日を確認し、適切な方法で保管を

近年販売されたカセットボンベには、製造年月日が表示されています^{*3}。保管しているカセットボンベを使用する際には、製造から長期間経過していないかを確認してください。製造や購入の時期が不明な場合や、金属部に変形や錆がある場合は使用しないようにしましょう。

カセットボンベは、カセットこんろから取り外して適切に保管し、1年に1度は外観や製造年月日を確認して長期間経過しないうちに使い切りましょう。

*1 PIO-NET(パイオネット:全国消費生活情報ネットワークシステム)は、国民生活センターと全国の消費生活センター等をオンラインネットワークで結び、消費生活に関する相談情報を蓄積しているデータベース

*2 2014年4月以降受け付け、2019年10月末日までの登録分。件数は特別に事例を精査したもの

*3 2013年10月1日以降に国内事業者が製造したもの

参考：国民生活センター「カセットボンベの保管期間にご注意を！-内部のゴムパッキンが劣化してガス漏れすることも-」(2019年12月26日公表)
http://www.kokusen.go.jp/news/data/n-20191226_1.html